

立川市第4次子ども読書活動推進計画の進捗状況及び
第5次計画に向けた主な課題

令和6年7月19日
第24期立川市図書館協議会
第1回定例会資料6

No.			基本事業	取組項目及び事業内容	令和5年度までの取組状況	図書館協議会「中間総括にかかる 第三者評価に関する報告書」 (令和5年7月提出)	次期（第5次）計画に向けた主な課題
施策	基本事業	事業					
1 家庭や地域での取組							
1 家庭での読書活動への支援							
1	子どもを取り巻く大人への支援	①初めての子育てにのぞむ方への支援 これから親になる人、乳幼児の保護者に向けて、親子のスキンシップの方法の一つとして、絵本や手遊び・わらべ歌などを学ぶ講座を開催し、本に親しむ環境を作ります。 ②家庭での読書活動の推進 基本図書リストをはじめとする、「おすすめ本リスト」の作成・配布、図書館でのおはなし会や出前おはなし会の開催、絵本選びの参考となる資料の充実など、保護者等の大人へ向けて働きかけ、家庭での読書推進の推進を支援します。 ③その他子どもの読書活動に関わる大人への支援 児童書について理解を深めるための講座やわらべ歌、昔話を学ぶ講座などを開催します。	①②③【図書館】 これから親になる人、0、1歳児の保護者に向けての「赤ちゃんサロン」や「本好きな子どもに育てるには」の講座を通し、乳幼児期から本に親しむ環境を作った。基本図書リストをはじめとする「おすすめ本リスト」の作成・配布、図書館でのおはなし会や出前おはなし会の開催により、家庭での読書推進の支援を行った。また、わらべうたや昔話を学ぶ講座、絵本や子どもの読書について理解を深めるための講座の開催を定期的に開催した。	【図書館協議会評価 A】 子どもたちの読書習慣の形成は、本に触れる機会を多く作ることが必要となる。家庭において、いつでも本に触れられる環境を整えることの重要性を保護者に理解してもらえるよう働きかけると同時に、子どもと共に本に触れあう方法を学ぶ機会を提供する取り組みを継続して実施し、たくさんの人に広めてほしい。	①②③【図書館】 コロナ禍でおはなし会の開催が中止となり、参加者の足が遠のいてしまった。開催可能となった後も、回数や時間が縮小されたこともあり、参加者数はコロナ禍前の水準に戻っていない。おはなし会の開催について、曜日や開催時間などを調整して参加しやすい環境を整えるとともに、積極的な広報等工夫が求められる。		
2	子育て支援事業との連携	④ブックスタートの取組 3～4か月児健康診査時に、ブックスタートボランティアが、読み聞かせや絵本の紹介などを行い、直接絵本を手渡します。乳児期から本に親しむきっかけをつくるとともに、子育て支援情報を提供し地域での子育てを支援します。 ⑤健康診査(1歳6か月、3歳児)での取組 健康診査(1歳6か月児、3歳児)時に、読み聞かせにおすすめの本のリストや読み聞かせ啓発のリーフレットを配布するとともに、図書館案内のパンフレットも配布し、本に親しむ環境を整えます。	④【子ども家庭支援センター、図書館】 ブックスタート事業を着実に実施するとともに、終了後にはブックスタートボランティアの方と振り返りを行った。また、年1回フォローアップ研修を行うことで、ブックスタートの意義を確認した。 ⑤【健康推進課、図書館】 健康診査(1歳6か月児、3歳児)を有効活用し、本に親しむ環境の啓発を行った。健診会場にて図書館利用カードの新規登録の呼びかけを積極的に行った。	【図書館協議会評価 A】 ブックスタート事業があることで子どもたちに絵本の読み聞かせを行うことを親が積極的に取り入れることに繋がる。今後も継続して欲しい。また、兄弟間で同じ本が提供されることがないよう配慮を願うとともに、本の選定については図書館も関わっていったほしい。	④【子ども家庭支援センター、図書館】 令和7年度以降については、立川市公式LINEや母子手帳アプリの実施による周知手段の拡充や子育て・健康複合施設（仮称）の設置による母子保健担当部署とのより密な連携により、子育て支援情報を効果的に届けることができる見込みから、ブックスタート事業の見直し（絵本配布を行わず子育て支援情報を提供する）を図る予定。 ⑤【健康推進課、図書館】 所管課と連携し、図書館来館者以外にも働きかけを継続する。妊娠中または出産後1年以内で図書館への来館が困難な方に対し、図書の宅配事業を実施することで、安心して読書を楽しんでいただき、子育てしやすい環境を提供する。併せて妊産婦向けの情報もお届けする。		
2 地域での取組							
3	地域で読書しやすい環境の整備と児童施設等との連携	⑥学齢前の子どもに関わる施設等での取組 保育園・幼稚園、児童館、子ども未来センター、子育てひろばなど子どもに身近な施設で、おはなし会の開催や図書館訪問などを行い、本に親しむよう取組を行います。 ⑦学齢前の子どもに関わる施設等での読書環境の整備 保育園・幼稚園、児童館、子ども未来センター、子育てひろばなど子どもに身近な施設で、図書館からの団体貸出や児童書再利用事業等を利用し、蔵書の充実を図り、読書環境を整えます。 ⑧子育て支援・社会教育施設等との連携 団体貸出や児童書再利用事業、共済事業等の開催を通じて、子どもたちの身近な場所で読書を楽しめる、本に親しむ環境を整備します。	⑥⑦⑧【図書館】 図書館以外でのおはなし会（読み聞かせ）を可能な限り協力して実施した。また、学齢前施設に対する団体貸出や児童書再利用事業による除籍資料の提供などで、読書環境の整備を継続的に実施した。 ⑥⑦⑧【子ども育成課】 ⑥子育てひろばにおいて定期的なおはなし会を行っている。 ⑦児童館での蔵書として運用している。 ⑧児童館での貸出図書として、利用者の利便性に寄与している。 ⑧【子ども家庭支援センター】子ども家庭支援センターで実施する講座の保育や、保護者のおしゃべり会で除籍図書等を活用し、物語の楽しさに触れる機会を設けた。 ⑥⑦⑧【保育課】 公立保育園において、おはなし会の開催や図書館訪問の実施、団体貸出の活用などを通じ、園の子どもたちが本に親しむ機会を設けた。 ⑥⑦⑧【子育て推進課】 13か所の常設子育てひろば中10か所で、ボランティアのおはなしサークルによるお話を年2回から月1回実施している。地域の図書館の団体貸出を利用し、子育てひろば終了時に指導員による読み聞かせを実施している。ひろばによっては、図書館職員による読み聞かせや図書館紹介行事を年1回程度依頼。 ⑧【生涯学習推進センター】 「子どもたちの居場所づくり」の一環として、夏休み期間中の毎週火曜日にイベントを実施した。図書館職員による小学生を対象とした読み聞かせや手遊び、ミニゲームを行い、多くの参加が得られた。	【図書館協議会評価 B】 本が身近にある環境作りは子どもたちにとってとてもよい。いつでも気軽に本を手にとれる環境は、子どもたちの読書習慣に大きな影響を与える。今後もさまざまな子どもに関連する施設の中で、本に触れる場が増えることを望む。	⑥⑦⑧【図書館】 各所管課と情報共有や要望のすり合わせ等を行い、連携を図りながら進める。 ⑥⑦⑧【子ども育成課】 ⑥乳幼児事業である「子育てひろば」事業以外に児童館主催事業による「親子サークル」でのおはなし会の充実 ⑦蔵書の点検と配架図書の整理。 ⑧魅力的な図書の充実による利便性の拡大と児童館での読書環境の改善。 ⑧【子ども家庭支援センター】 現計画の取組を継続する。 ⑥⑦⑧【保育課】 共済事業の在り方について、引き続き検討する。 ⑥⑦⑧【子育て推進課】 検討中 ⑧【生涯学習推進センター】 検討中		

No.			基本事業	取組項目及び事業内容	令和５年度までの取組状況	図書館協議会「中間総括にかかる 第三者評価に関する報告書」 (令和５年７月提出)	次期（第５次）計画に向けた主な課題
施策	基本事業	事業					
	4		家庭や地域に根差した図書館づくり	⑨地区図書館の児童書の整備 子どもたちに身近な地区図書館で、地域の人口特性や学校、児童関連施設との併設など立地状況に合わせた蔵書構成を積極的に行うなど、児童書をさらに充実させます。 ⑩全地区図書館での定例おはなし会の実施 各地域の独自性を尊重しつつ市内全域の子どもたちに同等のサービスを提供できるよう、開催日や時間、開催回数の検討を行い、より参加しやすいおはなし会を目指します。	⑨⑩【図書館】 コロナ禍では簡略化した方法ではあったものの、月１回の評価会を通じて、各地区図書館の状況に応じた選書を行い、多くの子どもたちが本に触れることができるよう、環境を整備した。また、おはなし会については、コロナ禍においては開催を見送る状況がしばらく続いた。感染状況が落ち着き始めた頃からは、参加人数の制限や開催時間の短縮、会場を変更するなどの感染対策を行いつつおはなし会（３、４歳くらいから小学校低学年まで）を再開した。５類移行後は、全地区図書館で乳幼児向けおはなし会（乳幼児とその保護者）も定期的に開催することができた。夏休み等には、大きい子向けのおはなし会（小学校３年生以上）も開催できた。	【図書館協議会評価 Ａ】 地区図書館でのニーズを踏まえ、児童書の評価会を通じて選書を行い、蔵書の充実を図っている点は評価できる。おはなし会については、感染症対策のため、開催規模は大幅に縮小せざるを得なかったが、感染状況に配慮しながらも段階的にコロナ禍以前の開催規模に戻せるよう期待する。また、その過程において、開催曜日や時間帯など、参加しやすい在り方を検討していったほしい。また、参加人数だけでは測れない部分もあるので、魅力的なおはなし会を提供していくために、常に図書館員やボランティアのスキルアップに努めてほしい。	⑨⑩【図書館】 今後おはなし会は、年代別の参加者数といった事業効果の分析などによる戦略的なサービス展開や、適切な事業規模（目標）などを定め、計画的に運営することが課題となる。定例おはなし会は、小学生の参加に課題がある。年齢対象を限定した、大きい子向けのおはなし会も、全館で不定期でも良いので、増やしていくよう検討を進める。また、図書館員やボランティアのスキルアップも課題である。
	5		市民団体、地域文庫等の読書活動の支援	⑪読書活動団体等への支援 地域文庫や家庭文庫等子どもの読書に関する実践・学習等を行っている団体は、地域に根差した活動を長年続けており、豊かな経験をもとに子どもと本を結ぶ活動を幅広く展開しています。こうした団体と協力・信頼関係を築き、活動しやすい環境整備に努めます。	⑪【図書館】 活動場所の提供や、ボランティア保険への加入等、安心してボランティア活動が展開できるよう支援を行った。また、アンケート調査を行うなど、ボランティア団体のニーズを把握し活動しやすい環境づくりに努めた。希望する団体に対して、児童書再利用事業による除籍資料を提供し、各団体の活動に役立ててもらうことができた。	【図書館協議会評価 Ｂ】 除籍資料の提供を計画的に行うことで資料の有効活用と子どもの読書環境の充実に努めている。今後は、開催時期や資料の種類等、対象団体にアンケートを行うなどしてより効果的に資料を提供できるよう検討を進めてほしい。	⑪【図書館】 引き続き連携をとり、各団体が活動しやすい環境整備に努める。
2 学校と学校図書館の取組							
3 読書活動の充実							
	6		学校での読書活動の推進	⑫各学校での特色を生かした読書活動推進 「朝の読書」、「読書旬間」、「調べ学習」等の読書活動により、児童・生徒が読書習慣を身につけるよう努めます。 ⑬児童・生徒への学校図書館利用指導 年度当初には児童・生徒に対して、学校図書館の利用に関するオリエンテーションを行い、学校図書館の利用促進を図ります。	⑫⑬【指導課】 小学校では、全校で読書活動推進が教育課程に盛り込まれ、調べ学習や朝読書を定期的に実施した。小中学校において、図書館支援指導員によるオリエンテーションを行い、学校図書館の利用を促進した。	【図書館協議会評価 Ｂ】 学校内における読書活動促進のための読み聞かせなどの回数が増えていることやレファレンス件数が増えていることから、以前より子どもたちが本に触れる機会が増えている可能性はある。今後も学校図書館の利用促進できるように整備して欲しい。また、学校は児童・生徒にとって学習の場・生活の場であり、学校における読書活動は読書習慣を身に付ける場として重要であり、学校図書館支援指導員が重要な役割を果たす存在であることを認識し、小中学校とも、週５日間の配置を目指して努力してほしい。	⑫⑬【指導課】 学校図書館の利用促進にあたり、学校図書館支援指導員と教職員の連携は必要不可欠である。今後、学校での読書活動推進の活動をより明らかにするとともに、学校図書館支援指導員が重要な役割を果たす存在であることを認識し、小中学校とも活用方法を検討する。
	7		読書指導の計画的な推進	⑭読書指導全体計画の推進 読書指導の全体計画に、学校図書館利用を位置づけ、教科等で学校図書館が計画的に活用されるように取り組みます。	⑭【指導課】 各教科の授業単元での資料提供支援や単元に合わせた学校図書館内の展示等の授業支援を行った。	【図書館協議会評価 Ｂ】 小中学校ともに、学校図書館支援指導員による授業支援が定着してきているようだが、更なる有効活用に向けて、支援指導員の配置時間を増やすことや、教職員としっかりとした連携ができる体制を整えてほしい。	⑭【指導課】 授業支援を引き続き行い、生徒の授業時間での「調べ学習」につなげていく。
	8		教職員等の体制の整備	⑮教職員向け研修等の充実 学校図書館担当者連絡会やその他研究会の場を活用して、学校図書館におすすめの新刊図書紹介、「アニメーション」や「ブックトーク」などの読書活動の取組など幅広い研修を行います。	⑮【指導課】 図書館支援指導員を小学校に週２日程度、中学校に週１日程度配置した。積極的な学校図書館の活用を目指し、全校の図書館支援指導員が「支援指導員だより」を作成し、主体的な情報提供を進めた。 ⑯【図書館】 学校図書館担当者連絡会を利用して学校図書館におすすめの新刊図書や「たちかわ電子図書館」の利用案内、読書バリエリーに関する資料の紹介などを行った。	【図書館協議会評価 Ｂ】 図書館支援指導員の活用を含めた各校の取組を紹介し、夏季研修会で講師を招き、学校図書館の利用促進につなげていることは評価できる。図書館においては、教職員向けの研修の実施について、実現に向けて努力をしてほしい。なお、図書館における教職員向けの実務研修の実施は、図書館業務を理解してもらえる良い機会なので積極的に受け入れてほしい。	⑯【指導課】 教職員向けの講座や学校図書館支援指導員の活用方法を具体的に施策に反映させる。

No.			基本事業	取組項目及び事業内容	令和５年度までの取組状況	図書館協議会「中間総括にかかる 第三者評価に関する報告書」 (令和５年７月提出)	次期（第５次）計画に向けた主な課題
施策	基本事業	事業					
	9	読書活動の情報共有化	⑯学校図書館担当者連絡会の開催 学校図書館担当者連絡会を開催し、各校の学校図書館の活用や読書活動等の情報を共有するとともに、学校と市立図書館との連携を図ります。	⑯【指導課】【図書館】 学校図書館担当者連絡会の内容を見直し、開催回数を従来の年２回を３回にし、新刊や読書バリアフリー教材（マルチメディアデイジー）の案内、中央図書館と学校図書館との連携についてや各地区館の担当者と学校担当者との話し合いの場を設け、また、第３回目は学校図書館支援指導員を交えてグループ討議も行うなど学校と図書館との情報交換・共有化等を進めた。	【図書館協議会評価　Ｂ】 各地区館の担当者と学校担当者との話し合いの場を設けるなど、業務多忙な中で密な連絡に努めている点は評価したい。より現場レベルの声を共有できるよう、そこで出された意見をフィードバックする等、連携の緊密化に期待する。	⑯【指導課】 回数の見直しを行ったが、内容については再検討する。	
4 学校図書館の活性化							
	10	学校図書館の活用推進	⑰利用しやすい学校図書館づくり 学校図書館の書架整理、館内装飾等の環境整備及び蔵書構成の充実を図り、児童・生徒にとって利用しやすい環境を整えます。 ⑱児童・生徒による学校図書館利用促進 図書委員会の委員を中心とした児童・生徒による書架整理、読み聞かせ、図書紹介の作成など、さまざまな方法で学校図書館の環境の整備に努めます。 ⑲保護者・地域ボランティア等との協働 読み聞かせや貸出、返却だけでなく、図書の修理・館内装飾などについても、保護者・地域ボランティア等と協働して行い、学校図書館の読書環境の向上を図ります。	⑰⑱⑲【指導課】 各校とも図書委員会や図書館支援指導員を中心に、蔵書点検・テーマ展示など、学校図書館の利用促進のための環境整備を積極的に進めた。ボランティア活用に関しては、保護者等の協力を得られているが、専門性を含めた人材の確保に一定の課題がある。 ⑲【生涯学習推進センター】 学校図書館支援を目的とした立川市学校支援ボランティアの派遣を行った。	【図書館協議会評価　Ｂ】 学校図書館支援指導員の配置・活用は、活動内容の定着がうかがえる。今後も児童・生徒にもっとも身近な図書館としての学校図書館の活動の充実を望む。また、地域ボランティア等との協働については、学校図書館支援指導員や担当教職員との連携が重要であり、安定的な活動実績となるよう努めてもらいたい。	⑰⑱⑲【指導課】 学校図書館支援指導員の配置・活用内容については更なる充実を図る必要がある。 ⑲【生涯学習推進センター】 既に学校図書館での支援をしている、保護者や地域ボランティアの支援員がいるため、立川市学校支援ボランティアのニーズが低い。	
	11	学校図書館ＩＣＴ化の推進	⑳学校図書館管理システムのネットワーク化の研究 調べ学習など同一テーマの本が多数必要な場合などに、学校図書館間の貸出が行えるよう学校図書館管理システムのネットワーク化の課題についてについて整理し、研究します。	㉑【学務課】 学校間ネットワークを構築、学校図書館システムを導入し令和３年度から本格稼働した。	【図書館協議会評価　Ｂ】 学校間ネットワーク構築を基盤とし、学校図書館システムのクラウド版を導入したことで、学校図書館間のネットワーク化を実現したことを評価する。今後は、時代に即したネットワーク環境の維持、充実等に努めてもらいたい。	㉑【学務課】 国のセキュリティポリシーガイドラインに基づき令和８年度に予定している学校間ネットワーク及び教育ICTシステムの統合以降について、学校図書館システムを安定して運用する。	
	12	学校図書館機能の充実	㉒学校図書館支援体制の研究 各教科等の中で、学校図書館をさらに活用し、計画的な図書館利用を促進するため、他の自治体の学校図書館の支援体制について調査・研究を行い、学校図書館の機能充実を図ります。	㉒【指導課】【図書館】 公立図書館と学校図書館の連携を支援する体制として、学校図書館支援拠点機能の調査・研究を引き続き行った。	【図書館協議会評価　Ｂ】 学校図書館支援センター推進事業のモデル市を参考にするなど、先進的かつ実績のある自治体等の調査、研究を行うことで、立川市の現状を踏まえ、学校図書館の可能性を広げる方向に動いてほしい。	㉒【指導課】 学校図書館支援センター推進事業のモデル市を参考にするなど、先進的かつ実績のある自治体等の調査、研究を行う。	
3 立川市図書館の取組							
5 読書環境の整備							
	13	図書館サービスの充実	㉓「たちかわ読書ウィーク」の推進 図書館に足を運んでもらうきっかけづくりの一環として「たちかわ読書ウィーク」の推進に努めます。図書館だけでなく、さらに全市的な取り組みになるよう、学校をはじめとする子どもに関連する施設やほかの事業者とも連携していきます。 ㉔図書館利用促進のための取組 おすすめ本のパンフレット作成、本の人気投票・ＰＯＰ（ポップ）バトル、図書館員体験、夏・冬などの特別なおはなし会の開催、図書に関連する講座の開催など、さまざまな取組を行い、利用の促進を図ります。	㉓㉔【図書館】 図書館の利用を促すため、基本図書クイズ、ＰＯＰバトルなど「たちかわ読書ウィーク」に様々な取り組みを行った。その他には、小・中学生向けの図書館使いこなし講座や図書館員体験、夏・冬などの特別なおはなし会を開催した。 おすすめ本のパンフレット作成の際に、たちかわ電子図書館でも利用できる図書にマークをつけるなど、紙と電子両方の書籍を利用してもらえるように工夫した。	【図書館協議会評価　Ａ】 コロナ禍の下、対面でのさまざまな事業が制限される中、ブックリストの充実や電子図書館利用促進のための利用カードの配布など、感染症に左右されない図書館サービスを実施していることは評価できる。今後、感染症と向き合いつつ各種事業が再開されていく中で、以前からの課題である子どもたちの読書量や図書館利用の減少への対応や、中高生世代への図書館利用のアプローチ、おはなし会の低年齢化への対応などは重点的に取り組んでいってほしい。	㉓㉔【図書館】 全市的な取り組みとなるよう、学校を始めとする子どもに関連する施設やほかの事業者との連携を検討する。市内の個人・民間事業者からの支援も活用し、「たちかわ電子図書館」の児童向けコンテンツの充実と利用促進をはかる。	

No.			基本事業	取組項目及び事業内容	令和５年度までの取組状況	図書館協議会「中間総括にかかる 第三者評価に関する報告書」 (令和５年７月提出)	次期（第５次）計画に向けた主な課題
施策	基本事業	事業					
14	児童サービスの充実		②④児童コーナーの充実、整備 児童書の核となる基本図書を中心に、絵本・読み物、ノンフィクションの本に加え、人気の本・流行の本など幅広い蔵書構成となるように努めます。また、基本図書の選定・改定、テーマ展示、館内装飾や情報コーナーなども充実させ、魅力的なコーナーとなるよう努めます。 ②⑤おはなし会等の実施 全館で、乳幼児向け・３、４才くらいから小学校低学年向けおはなし会を定例的に開催します。夏休み期間中などには、小学校３年生以上の大きい子向けのおはなし会も開催します。また、学校や児童関連施設へ出向いての出前おはなし会等も行います。 ②⑥子どもの読書活動に関わる大人に向けての講座・講演会等の実施 子どもの読書活動に関わるボランティア等の大人に向けて、児童書に関する知識をより深めるための講座・講演会等を開催します。	②④⑤⑥【図書館】 ②④児童コーナーの充実、整備 蔵書の核となる基本図書のほか、よく読まれている絵本や読み物を買替えることで、子どもたちに手に取られやすいようにした。また、流行しているジャンルの本なども取り入れて、幅広い蔵書構成となるように図書の選定作業を行った。基本図書の選定・改定、季節やその時々話題などに沿ったテーマ展示や館内装飾を行い、魅力的なコーナーとなるよう努めた。 ②⑤おはなし会等の実施 コロナ禍で一時期中断したが、５類移行後は全館で乳幼児向け及び４歳から小学校低学年向けのおはなし会を定例的に開催した。夏休み期間中などには、小学校３年生以上の大きい子向けのおはなし会も開催した。また、児童関連施設へ出向いての出前おはなし会等も実施した。 ②⑥子どもの読書活動に関わる大人に向けての講座・講演会等の実施 子どもの読書活動に関わるボランティアのほか、児童書や読書活動に関心のある大人に向けて、児童書に関する知識をより深めるための講座・講演会等を開催した。	【図書館協議会評価 Ａ】 児童書の基本図書の選定や、蔵書の充実、おはなし会の開催、ボランティア研修等の講座の開催、利用促進のための取り組み等、様々な部分でサービスの充実を図り、一定の成果が出ている点は評価できる。ただ、ボランティア団体が長年、携わってきた学校や保育園でのお話会がコロナ禍で中断され、今現在もそのほとんどが再開できていない。図書館として、ボランティア団体と学校をつなぐ役割も検討して頂きたい。なお、中央図書館４階の以前新刊紹介をしていた場所を季節やイベントに沿ったテーマ別絵本を紹介する棚とし、面出しをしているので、非常に手取りやすい。面出しをするテーマ別コーナーはかなり有効だと思う。この試みを児童だけでなく、２階や３階でも行ってほしい。一般向けの本であっても、NDCに捉われない棚を設けるなど、本を手取りやすい工夫をしてほしい。書店では展示方法により、思わず本を手にとったり、読みたくなったりすることがあり、図書館でもできるはずであり、是非検討してもらいたい。	②④⑤⑥【図書館】 定例のおはなし会は、参加者が全体的に低年齢化しており、小学生の参加が少ないのが課題である。また、参加者数はコロナ禍以前の水準には戻っておらず、広報や開催日程の変更など検討が必要である。児童関連施設でのおはなし会は再開されつつあるものの、学校でのおはなし会は、学校側の事情もあり、再開については未定である。	
15	ヤングアダルトサービスの充実		②⑦ヤングアダルト（YA）コーナーの充実、整備 YA世代の日常生活や学習に必要な資料を中心に、関心の高い分野や共感を得られるような読み物など、幅広い蔵書構成となるように努めます。また、テーマ展示や館内装飾、情報コーナーなども充実させ、魅力的なコーナーづくりを目指します。	②⑦【図書館】 学校生活や進路などYA世代の日常生活に関わる図書や学習の参考となる資料を中心に、この世代からの関心が高い分野や、共感を得られるような読み物など、児童書から一般書までを対象に幅広く選書を行った。また、季節やその時々話題に沿ったテーマ展示や館内装飾、情報コーナーなども充実させ、魅力的なコーナーになるよう努めた。	【図書館協議会評価 Ｂ】 コロナ禍の下、さまざまな制限がある状況であるが、丁寧なコーナーづくりを心掛けている。中高生世代の心に響く資料の収集、コーナーづくり等を引き続き充実させ、その情報について積極的に発信してゆくことで、読書離れが懸念される世代へ働きかけてほしい。	②⑦【図書館】 YA世代の利用を促進するべく、コーナーの充実に向けて引き続き興味・関心のある分野の資料を揃えるとともに、流行等にも留意した蔵書構成となるよう取り組んでいく。	
16	ホームページ等を活用した情報発信		②⑧子ども向けページの充実 おはなし会や展示の様子の写真を載せるなど、子どもにとって、わかりやすく親しみやすいホームページとなるよう努めます。また公式ツイッター等も活用し、最新情報を発信します。 ②⑨ヤングアダルト（YA）向けページの充実 ヤングアダルト（YA）コーナーの様子や新刊リストを載せるなど、情報の更新を行い、ヤングアダルト（YA）世代にとって、魅力的なホームページとなるよう努めます。また公式ツイッター等も活用し、最新情報を発信します。 ③⑩子どもに関わる団体等への情報提供・利用支援 図書館が開催するおはなし会やさまざまなイベント等の情報、新刊図書リスト、図書館の様子などの写真も掲載し、情報提供に努めます。	②⑧②⑨③⑩【図書館】 「おはなし会」や「テーマ展示の様子」の写真を掲載するなど、使いやすく、ビジュアルに富んだ魅力的なホームページとなるよう作成した。また公式ツイッター等も活用し、企画展示等の最新情報を発信し、来館利用を呼びかけた。各館で実施している様々な展示やイベント情報の掲載や、作成したおすすめ本のリーフレットやYA世代向けの「ＹＡ新刊図書リスト」なども随時更新し、最新の情報を提供できるよう努めた。	【図書館協議会評価 Ｂ】 公式ツイッターの活用など、最新の情報を発信し情報の提供に努めていることは評価できる。ホームページを図書館の重要な情報発信源として活用し、使い易さを追求し、図書館の利用促進につながることを期待する。印刷物、ウェブサイト、SNSなど多様なメディアが存在する昨今の情報環境に配慮し、今後はそれぞれの特性を活かしたもう一段レベルアップした情報発信を心がけてほしい。	②⑧②⑨③⑩【図書館】 ホームページやSNS等を活用し、図書館の利用促進につなげる。	
17	読書意欲を高めるきっかけづくり		③⑪読書意欲を高めるイベント等の実施 小・中学校へのおすすめ本パンフレットの作成・配布や読書ウィークでのイベント、学校と連携したPOP展示や館内展示、ビブリオバトルなど興味をひくイベントを実施して、読書意欲を高めるよう努めます。	③⑪【図書館】 小・中学校へのおすすめ本パンフレットの作成・配布や読書ウィークでのイベント、学校や部活動と連携したPOP展示や館内展示などを実施することで、図書館への来館を促し読書意欲を高めるよう努めた。ビブリオバトルは、感染症対策に留意しつつ、毎年進行方法や内容を工夫して実施した。	【図書館協議会評価 Ｂ】 学校との連携の下、おすすめ本POPを作成、展示する取り組みは、子どもたちの読書活動と伝えたい気持ちの表現活動に効果があり、一層の意欲を引き出すことが期待できる。こちらの取り組みだけでなく、学校と連携してさまざまな形での取り組みを模索し実現させ、子どもたちのさらなる読書意欲の向上に寄与するよう努めてほしい。	③⑪【図書館】 イベントの内容を、読書に興味関心のない対象者へも働きかけられるようなものにする。特にビブリオバトルについては、参加者の満足度は高いものの、参加人数が少ないことが懸念事項である。関係機関等の協力を仰ぎつつ、ワークショップ形式など様々な手法を交えるなど、参加者と一体となった魅力ある取組であることを発信していく。	
18	子どもの読書に関わる団体等の連携		③⑫ボランティア団体との連携 図書館、保育園、学校など子どもに関わる施設でのおはなし会、「たちかわ読書ウィーク」等での共催事業、団体貸出の実施等さまざまな機会連携し、子どもの読書環境の向上に努めます。 また、スキルアップのための講座の開催や勉強会等を連携して行います。	③⑫【図書館】 図書館で実施する定例のおはなし会を中心に、季節ごとのおはなし会や読書ウィークにおける文庫まつりでの講演会等さまざまな機会連携して事業を行った。また、連絡会への参加や勉強会の開催などでも連携を深めた。団体貸出の実施や児童書再利用事業での除籍図書の提供なども行った。	【図書館協議会評価 Ｂ】 図書館で行うおはなし会やイベント等で、ボランティアとの協働や事業を共催するなどして連携を図り、ボランティア団体が独自に行う読書活動や文庫活動にも団体貸出等の支援を行っていることは評価できる。子どもの読書環境の向上という目的のもとに、図書館員とボランティアが対等な関係で、相互に協力しながら資質向上を目指し、連携していくことが望ましい。コロナ禍で中断した学校や保育園でのおはなし会の再開には、中央図書館も尽力していただきたい。	③⑫【図書館】 引き続き、図書館員とボランティアとが対等な関係で相互に協力しながらスキルアップを目指し、連携して子どもの読書環境の向上に努める。	

No.			基本事業	取組項目及び事業内容	令和５年度までの取組状況	図書館協議会「中間総括にかかる 第三者評価に関する報告書」 (令和５年７月提出)	次期（第５次）計画に向けた主な課題
施策	基本事業	事業					
19			学校や学校図書館への啓発活動	㉓小・中学校及び高等学校への利用案内 小学校１年生全クラスに出向き、図書館の利用案内を行います。また、中学校１年生への図書館利用案内パンフレットの配布します。また、市内にある高等学校への利用案内配布など図書館利用について情報を提供します。	㉓【図書館】 小・中学校及び高等学校への利用案内 小学校１年生全クラスに出向き、図書館の利用案内を行った。また、中学校１年生への図書館利用案内パンフレットを配布したほか、市内にある高等学校へ利用案内を配布するなど図書館利用について情報を提供した。	【図書館協議会評価　Ａ】 市内小中学校の新１年生に対して図書館の利用案内がしっかりと実施されているところは評価できる。今後は新１年生のみならず、対象学年や、各校の図書委員会あるいは読書に係る部活動の生徒にも拡大し、きめ細やかな案内を進めていくことを期待する。また、中高生においては、パンフレットの配布に留まらず、出前おはなし会やブックトークも検討されたい。	㉓【図書館】 継続して啓発活動に取り組んでいく。
6 小・中学校及び市内にある高等学校等との連携							
20			図書支援体制の充実	㉔学校図書館向け情報提供の充実 小・中学校の学校図書館におすすめの新刊本リストの配布、また年度初めには学校図書館向けの新刊図書の案内などを行い、学校図書館向け情報提供の充実に努めます。 ㉕学校カリキュラムに対応した図書の団体貸出・来館対応 調べ学習等への図書の団体貸出に対応するため、調べ学習用図書の蔵書をさらに充実させ、図書館に来館しての調べ学習等には、資料の探し方・索引の使い方などさまざまな利用について支援します。 ㉖学校への団体貸出用図書の充実 定番の本に加え、人気の本や、読書になじみのない子でも手に取りやすい本など、学級文庫等への団体貸出用の図書を充実させます。小・中学校への図書の定期配送便を継続して運行します。	㉔㉕㉖【図書館】 年度初めには図書館からのおすすめ本のリーフレットや小・中学校の学校図書館におすすめの新刊図書のリストを配布し、学校図書館向け情報提供の充実に努めた。 調べ学習等への団体貸出に対応するため、新刊図書の情報に目を配り、調べ学習等に対応できる図書を新規購入するなど蔵書をさらに充実させた。図書館に来館しての調べ学習等には、資料の探し方・索引の使い方などを支援した。小学校・中学校への定期配送便は引き続き実施した。特に中学校からは新規図書を要望する声があったため、貸出用図書を定期的に購入し順次入れ替えるなど内容の充実に努めた。	【図書館協議会評価　Ａ】 学校図書館、児童生徒へ向けてのリストの配布や情報提供、調べ学習への支援、蔵書の充実、団体貸出の定期便の実施等、様々な面で支援体制の充実に努めているところは評価できる。さまざまな視点でのアプローチを積極的に検討・実現していく努力を今後期待する。	㉔㉕㉖【図書館】 公共図書館と学校図書館との連携がより充実するよう、様々な視点から方策について検討が必要である。
21			教職員等への支援体制の充実	㉗学校向けホームページの充実 図書館ホームページ内の学校向けホームページでは、図書館の利用案内、図書館からのおすすめ本リスト、職場体験の受入状況など、図書館を利用しやすいよう情報を提供します。 ㉘教職員・ボランティア等への支援 教職員向け図書館利用案内を学校へ出向いて行うとともに、図書担当教諭・ボランティア等へ専門的知識・技術の向上のための研修や、新刊図書リストの提供やパスファインダー等の作成を行います。	㉗㉘【図書館】 図書館ホームページ内の学校向けホームページでは、図書館の利用案内、図書館からのおすすめ本リスト、職場体験の受入状況などの情報提供をした。 教職員向け図書館利用案内を学校へ出向いて行った。新刊図書リストの提供や過去に作成したパスファインダーを活用し、支援することはできた。	【図書館協議会評価　Ｃ】 日頃忙しい教職員へ向けての支援は、様々な方法が考えられる。子どもたちに読書への誘いを促す身近な存在として、教職員の役割は重要である。その支援体制を強化し、利便性を高めることは、図書館の大きな課題である。学校向けホームページは、関連ファイルの表記や場所の工夫を行い、より充実した支援が必要である。学校現場のニーズにマッチした支援体制の充実を、可能なことから積極的に進めていくことを期待する。図書担当教諭や学校図書館ボランティア等への支援を充実していけるよう取り組んでほしい。	㉗㉘【図書館】 学校現場のニーズにマッチした支援体制の充実を図っていくことが求められている。
22			子どもたちの図書館活動の推進	㉙図書館見学、職場体験、ボランティア体験等の受入 社会科見学等や、中学生の職場体験、高校生のボランティア体験など積極的に受け入れることで、児童・生徒が図書館を理解し、利用するきっかけとなるよう努めます。 ㉚図書館を利用した情報活用能力の向上 本を利用した情報活用能力の向上を図るために、社会科見学で図書の分類の説明を行います。さらに資料の探し方、分類・索引等の使い方を学べるように、「本の探偵修行（小学校４年生から６年生）」や「半日図書館員（小学校４年生から６年生）講座」、「一日図書館員（中学生）講座」等を開催します。本を利用した情報リテラシー能力の向上を図ります。またパスファインダを引き続き作成します。 ㉛学校と連携してのイベント等の開催 児童・生徒による図書紹介のPOPの展示、「たちかわ読書ウィーク」でのPOPバトル、市内高等学校と協力してのビブリオバトルを引き続き開催します。	㉙㉚㉛【図書館】 小学校の図書館見学（社会科見学、バリアフリー見学等）、中学生の職場体験・職場訪問など積極的に受け入れを行った。図書館での資料の探し方、分類・索引等の使い方を学べるように、また図書館業務についてより深く知ってもらうために「図書館使いこなし術小学生編・本の探偵修行」や「図書館使いこなし術中学生編・一日図書館員」、「半日図書館員体験（小学校４～６年生）」等を開催した。受け入れ人数については、感染症の流行状況等に伴い、少しずつコロナ禍以前の人数に戻して実施した。市内中学校、高等学校及び中等教育学校と協力して、POPバトルやビブリオバトルを引き続き開催した。	【図書館協議会評価　Ａ】 感染症対策として受け入れ人数の上限が狭められ、受け入れ状況としてはコロナ禍以前よりは減少しているものの、実現できるよう工夫をして受け入れを行った姿勢を評価したい。感染症対策と両立しつつ、効果的に事業を実施できるよう今後も努力し続けてほしい。	㉙㉚㉛【図書館】 ビブリオバトルについては、参加者の満足度は高いものの、参加者が少ない状況が続いているため、ワークショップ形式など様々な手法を検討するなど見直しが必要である。

No.			基本事業	取組項目及び事業内容	令和５年度までの取組状況	図書館協議会「中間総括にかかる 第三者評価に関する報告書」 (令和５年７月提出)	次期（第５次）計画に向けた主な課題
施策	基本事業	事業					
４ すべての子どもが読書できる環境づくりへの取組							
７ 読書活動が困難な子どもたちへの取組							
23	ハンディキャップがある子どもたちへの読書環境づくり		㊫ハンディキャップのある子どもへの読書活動の支援 録音図書（ディジー(DAISY)図書、マルチメディアディジー図書を含む）や点字図書、布の絵本・さわる絵本等の効果的なPR方法を検討し、ハンディキャップのある子どもたちの読書環境整備に努めます。また市内にある東京都立立川ろう学校との連携が行えるよう、利用案内等について検討します。	㊫【図書館】 ハンディキャップサービスで提供する資料を紹介する棚を２階一般フロアと４階子どもの本のフロアに設けた。また、地区図書館でもハンディキャップサービス資料を実際に手に取る機会があるよう、２ヶ月ごとに巡回するセットを作成して令和５年９月から地区図書館の巡回を開始した。 ハンディキャップのある子どもの周囲にいる大人である教員へのPRとして学校図書館担当者連絡会でハンディキャップサービスおよび資料を紹介した。	【図書館協議会評価 A】 蔵書として録音図書や点字図書、布絵本・さわる絵本があるが、利用の実態や要望を分析し、利用者に寄り添ったサービスが必要である。放課後等ディサービス等、ハンディキャップのある子どもたちに関わる諸団体へも図書館の取組、特に貸出についての周知を図っていくことが望まれる。	㊫【図書館】 図書館利用に障害のある、通常の図書を利用するのが難しい子どもたちへより直接的にPRできる方法を検討する。特に、東京都立立川学園（旧・東京都立立川ろう学校）との連携について、学校関係者とも協議して進めていく。	
24	外国語を母語とする子どもたちへの読書環境づくり		㊫外国語を母語とする子どもへの読書活動の支援 外国語を母語とする子どもたちにとって利用しやすい図書館となるよう環境整備に努めます。英語を中心として、中国語、ハングル等の外国語図書の購入を行い、蔵書の充実を図ります。また、外国語によるおはなし会の開催について課題を整理し、検討します。	㊫【図書館】 英語を中心に中国語、ハングルなどの外国語図書を購入し、蔵書の充実を図った。また、外国語児童書について、各地区図書館での巡回展示を令和３年度から実施し、外国語を母語とする子どもたちに対して、身近な図書館で外国語絵本に触れられる機会を提供することができた。	【図書館協議会評価 A】 地区図書館における外国語絵本巡回展示を開始したことで、子どもたちが近くの図書館で気軽に外国語図書を手に取れる環境づくりに努力したことを評価する。日本語を母語としない子どもへの支援は庁内の関連部署とも連携して検討してほしい。外国語によるおはなし会のみならず、日本語へ親しむことができるような読書環境の充実や、イベントを通じた交流なども視野に入れて取り組まれることを期待する。	㊫【図書館】 外国語によるおはなし会の開催について課題を整理し、検討する。	